

■日本芸術院賞受賞記念インタビュー

井茂圭洞さん

〈書家・一東書道会会長・兵庫県書作家協会会長〉

□特集〈和の伝統〉①

書は空気のようなもの —書家は夢を食べている

兵庫高校時代に

人生を左右した師と出会う

—竹中郁の詩を井茂先生が書かれた作品を、アネックス湊川ホスピタルで拝見しました。

あれは竹中さんがその病院のために書かれた未発表の詩でね、いい詩ですよ。あれを読んだらすぐ治って帰れそうな詩ですね。アネックス湊川の理事長先生のお嬢さんとうちの息子が同じ塾へ通っていたことからおつきあいがあった。神戸だとそういう人のつながりがあるところにあつておもしろいですよね。

私の父親は神戸中央卸売市場で青果の卸売業をしていて、書道の先生じゃ食べられへんからあとを継げと言われたけれどね。結局弟が継いだんです。子供のころは医者になりたかったんですよ。それも単純な発想なんです。私は8歳のときに膝関節結核にかかりまして、その昭和18年当時、結核の薬はなかったんですが、10年もたったら、私のような病氣も薬で治っていたのです。でも私はカエルの解剖ができなくてね(笑)。魚を切ることはできてカエルは切れません。それで医者はあきらめたんです。

—先生は兵庫高校ですよ。兵庫高校出身のアーティストは多いですよ。

勝手きままにやらしてもらったからとちがいますか(笑)。兵庫高校に入學して、書道部に入ったときは、まさか書家になれるとは思っていませんでした。というのは私は生まれながらの悪筆でね、くせのある字だったんですよ。ですから、サラリーマンになるなら字でも勉強した方がいいんじゃないかと思って書道部に入ったんです。そこで、顧問の深山龍洞先生と出会って大きな影響を受けました。

—悪筆だったから個性的な書が生まれたのではないですか？

そうですね。いわゆるきれいな字というのは均整の美です。楷書は均整美でよいのですが、続けて書くようになると上や横の字との関係で字の形が変わる均衡





北区の自宅で

喜び 芸術院賞受賞は2人分の

— 今回受賞された日本芸術院賞は。

これは作品に与えられる最後の賞です。芸術院の先生方50人の投票で、過半数以上を獲得するといただけなのです。

実は深山先生は、昭和50年に日展で内閣総理大臣賞を受賞され、その後3年間、いろいろな

の美になるんです。深山先生は均整の美よりも均衡の美を重んじる先生でした。私のことも、字がきれいという観念とはちがった目で見てくれていたのではないかと思います。他にもっと字の上手な人がいたのに、私に高校の書道の先生をしないかと言ってくださったんです。私が書道を始めた昭和32年頃は、おけいこごとといったらそろばんかピアノで、書道はあまりなかった。その後40年頃になって書道塾というのがたくさんなるのですが、その頃はまだそんなことわかりませんから、深山先生はよく「書道は誰かがやらんと消えていってしまう」と、細々でも続けていく人がいないとなくなってしまうとおっしゃっておられましたね。

そして、京都学芸大学（現在の京都教育大学）の書道科に入学したのです。

— 深山先生の助言があつて、書道の先生の道をお選ぴになったと。

先生は弟子を育てるのが上手でした。きみはこの

道に進みなさいと、勧めることをされない、つまり、よく生徒を左右しない先生もおられますが、深山先生はいろいろと助言してくださった。それに、先生はかなの形や文字の組み合わせ、どの字にどの字を組み合わせたら行に動きが出るとか、かなとかなを続ける線の種類などを、合理的に順番に教えてくれたんです。書は、いきつくところまでいきついたら感覚の仕事になるのですが、そこに至るまでは理知的な仕事で、どうすればどういう動きがでるか、という裏付けがある。それはいろいろな世界での「基礎」にあたるのでしょ。うね。基礎をきっちりしていたら、誤差の範囲で収まるんです。でもそのきっちりしたところに収まってしまったら人を感動させることはできないわけで、最終的にいかにだめだということに挑戦するかということになるのです。

私が出会ったときは、深山先生は学校を辞められる年で、51歳でしたが貫禄がありましたね。書に対する執念が肌からにじみ出ておられましたね。



県立淡路島公園に完成した深山龍洞先生の生誕百年記念書碑



昭和43年第21回一東書道会展にて深山龍洞先生（左）と井茂さん（右）

先生方にご理解をいただくためにご挨拶にまわったのです。そのときのかばん持ちを私がさせていたのだんですよ。私は大学の公職についたばかりのころで、授業の日は先輩の教授に頼んでね。

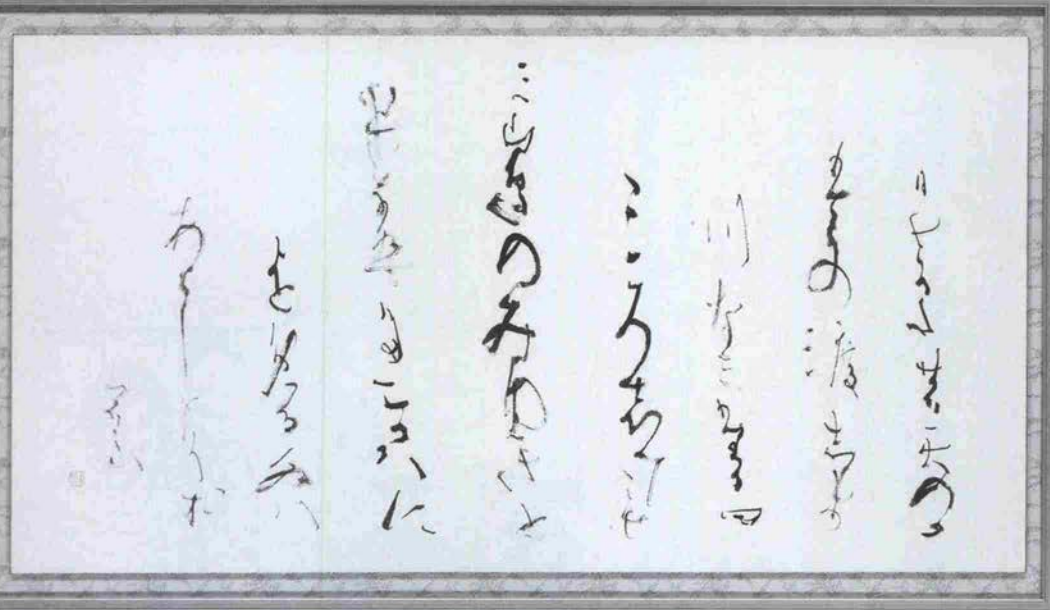
その3年めの10月に先生がガンで倒れられて、病院の先生に私が呼ばれて「これはもう助からないので、明日には親戚の皆さんをお呼びしなさい」と言われたんです。

その後は先生の奥さんとご一緒いたしました。今やったらね、もつとお役に立てたと思うのですが、私もしゃべれませんかやろ、41歳か42歳で芸術院会員の偉い先生と話もできませんし。また奥様も無口で（笑）。それに私がしゃべったって、先生の代わりはできませんよ。奥様と一緒に半年まわったのですが、1票足りなかったで通らなかつたんです。それで先生はそれがつくりと来たんでしょね。通っていたらもう少し長生きされたと思うんですけど。

ですから今回、私も自分のためにというよりは、先生の残された仕事のような気がしてしまってます。先日、4月30日に、深山先生の出身地である淡路に先生の書碑が完成して、その除幕式でも言ったんですが、先生が天国から応援してくれたからいただけた賞なのだと。そんなことで、今回の受賞は、私には大変意義のあることだったんですよ。

深山先生がもう危ないと病院の先生から聞いたあとに、ある人に、死後叙勲といって生きているうちにとれるのがあるんだと聞いて、榎本敏夫さんの紹介をいただいて、田中角栄先生にお願いに行つたんです。そうしたら県から、こういうものは出身地から出すもんやと怒られてね（笑）。でも深山さんは兵庫県の文化賞を受賞されていたから応対できたと言われたんで

日本芸術院賞が決定した「清流」
良寛の歌で「ひさかたの天のかはらの
渡しもり川なみたかしこころして
こそ」……



す。それがやると言われてからなかなか返事が来ない
んですよね。先生の体調もどんどん悪くなって、気が
気じやなかったです。結局、勲四等瑞宝章をいただい
たんですけれど、4月30日の閣議があつたその日の3
時頃に私のところに決まつたと連絡があつた。私はす
ぐに先生が入院されている海岸病院に行つて、勲四等
をもらえましたと伝えたら、先生はすぐ奥さんと呼ん
で、よかつたなあと、そうしたらその2・3時間後に
亡くなつたんです。先生には死後叙勲なんて言いませ
んよ。でもあれはね、先生が亡くなつたあくる日にも
らつたつて値打ちないですもんね。そんなことがいろ
いろあつて、今回のことも、私自身のことなんだけれ
ど、とても嬉しいことでした。

―二代にわたつての思いですものね。

まあね、兵庫高校に行つていなかったら深山先生に
お会いできなかったし、そうなら書家にもなつて
いなかった。

今は、先生の力がなくなつて、先生の生徒への感化
力がなくなつたといわれていますけれど、そりゃあ生
徒全員が先生の方を向くことはないかもしれません
が、波長の合う生徒は、やはり先生に左右されるはず
ですよ。偏差値の時代になって、入れる大学に行くよ
うになつてしまつて、この先生がいらっしゃるからこ
の大学に行くということもなくなつたらしいしね。私
は懷古主義ではないけれど、そういう古いこともいい
とは思ふんです。

これからもかな文字を追究

―先生にとつての書の魅力とは何ですか。

人は、空気がおいしいと思うことはあるけれど、空



夫人の鈴子さん、お孫さんの豊原匡志くん、主次朗くんとともに

気に感謝することはあまりないでしょう。それと同じで、ぼくは書道やっておれば楽しいともいえないけれど、苦しいこともないんです。音楽を聴いたり絵を見たりするような積極的なこととはちがって、私には書は空気のようなものですね。

今までは、古典というか、勉強方法が後ろを向いていたので、これから、前衛的ではないけれど、美しいかな文字をクリエイトしたいと思うんです。字を美しくアレンジするという話はよく聞かれます。私はもつとさかのぼって、例えば「あ」という文字をバラバラにして、自分の好きなようにしてしまいたい。「あ」を分解すると、水平・垂直・斜線・円の4つに分かれるのを、自分の感覚に合った形に、文字性を生かしながら再組織して文字を作ってしまったんですよね。

—その考えは神戸らしいものでしょうね。

京都の先生なんかはね、やはり雅びな字を書かれま

すよ。深山先生は神戸だったからしやれてましたね。以前、彫刻家の方とお話ししたときに、彫刻は置く場所によって光の加減がちがうから大変でしょうねと言ったら、「彫刻は光でなく影ですよ」と言われたんです。ぼくはそれを聞いて、書道も字の形ではなく行間・字間だと思っただけです。それは偶然ではなくて、陶芸家も、窯変を起こすべくして起こすとおっしゃいました。

絵画では、抽象画も好きでカンディンスキーなど見ますよ。かな文字の世界でも抽象絵画的な発想もとりたいと言ったら、先輩方から無理やと言われるかもしれませんが、書家なんているのは、夢を食べているものなんです（笑）。

（インタビュア 小泉美喜子）

- 井茂圭洞（いしげけいどう）
昭和11年9月16日神戸市生まれ
社団法人日本書芸院副理事長
社団法人日本書道連盟副理事長
財団法人書美術振興会顧問
京都教育大学名誉教授
- 昭和62年 書業三〇年記念井茂圭洞書作展（一〇〇品展）神戸そごうにて
平成元年 兵庫県文化賞受賞
平成7年 皇太子御成婚記念慶祝ピーテックハイム展出品（在ミューンヘン日本国総領事館主催）
平成10年 書道「デモンストレーション」（外務省国際交流基金による）
平成10年 神戸市文化賞受賞
平成10年 現代書道二十人展出品（以後毎年文部科学大臣兵庫県地域文化功労者表彰）
平成13年 日展内閣総理大臣賞受賞
平成14年 デモンストレーションコレクション（在ジュネーヴ日本国総領事館主催）
（在ジュネーヴ日本国総領事館出品）
（在ジュネーヴ日本国総領事館出品）
- 著作に、『かな字典』（二玄社刊）、『かな古典の学び方』（和泉式部総集切）（二玄社刊）高等学校書道教科書執筆（光村図書）などがある。

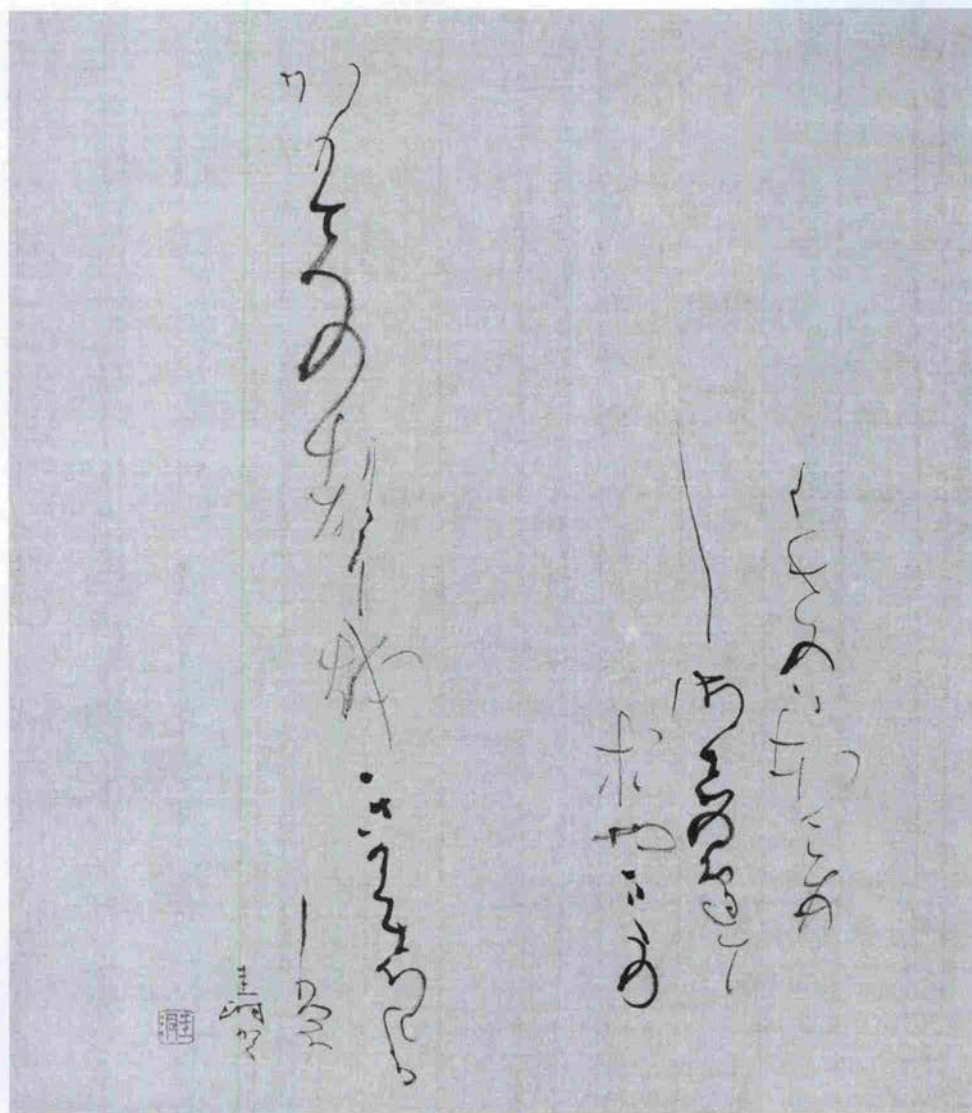
くさのいほに

あしとしのべて

おやまだの

かはづの聲をきかくしよしも

良寛



日本舞踊

花柳芳五三郎師

五十回の記念公演と

金婚式の幸せ

日本舞踊家・花柳芳五三郎師の、第五十回記念舞踊公演が、四月二十六日（土）二十七日（日）の二日間、神戸こくさいホールで華やかに開催された。最後のプログラム大和楽の「お祭り」を十二人のお弟子も含めた男性舞踊手たちとさわやかに踊り抜きごあいさつ。

「五十回の記念の会が無事に勤められましたのも皆様のご支援のおかげです」と頭を下げた芳五三郎師は、会場に感動の涙を誘った。

五月四日。布引の料理旅館「いさご」で、一息をつかれた芳五三郎師にインタビュー。

★ 五才から踊り始め、初舞台は六才で「手枕」

—何歳から踊りのお稽古を始めたのですか

芳五三郎 五才の時に先代芳次郎師に、福原の検番へお稽古につれて行かれて、六才の時に今の花柳呂月（当時芳一）師に預けられて小唄「手枕」が、初

舞台でした。それから十一才で花隈の芳五郎師（楽座師）のもとでお稽古し、十五才の時芳五郎師が兵隊に行かれたので、また先代の芳次郎師のもとへ行っただけです。

昭和十九年に芳五三郎の名を頂きました。初めは芳五郎に習っていたので芳五三郎が四十一画で人を育てる名前がいいよということになって（笑）おかげさんで長いこと踊らしてもらっています。

戦後、八千代劇場で忠臣蔵をやりました、私の勘平、恵一子（現芳二）さんのお軽、吉金吾（現吉童）のお軽と交代、芳一さん（現呂月）の定九郎で身受けのお軽（六段目）をやったんです。

初め五三郎会のおとき二十五才で大役伊左衛門をやりました。寿洗先生が喜左衛門、芳一さんの夕霧でした。

二十五才の時に映画に誘われまして、嵯峨美智子の女問者や、大菩薩峠とか忠臣蔵にもできましたが、やっぱり踊りが良いともしりました。

昭和二十七年にその結婚しましたね。あれから五十年。神戸新聞さんが二千六百人いる金婚式の代表夫婦になってといっただけで、それにしても今、七十六才。金婚式の年に五十回目の記念公演ができるなんて、ほんとに幸せものです。五月十一日に表彰していただいて、昭和二十六年に、五三郎の会を始めたんですから感慨深いものがありますよ。

そう国際会館の開館からやっています。五月。まあ震災の年も一年再建で延びて、四月オープンに、六月私が再建後一番でした。

★ 伊三郎（長男）と共にインターナショナルに

—それにしても記念公演のラスト大和楽のお祭りには男性舞踊手ばかりよく育てられましたね。



大和楽の「無悦夢情」より





大和楽の「お祭り」中央芳五三郎師

芳五三郎 息子の伊三郎、それに伊三輔、伊三峯、伊三豊（藤原流）小三郎、伊三之輔、竜一郎、知香之輔、秀之進（九州小倉）、豊三郎（中津）と男性舞踊手が少ないので皆にしっかりしてもらいたいと思います。

伊三郎は玉川学園で教えていますが、今、世界舞踊団に入っています。また、NY公演や、フィラデルフィア公演があるんです。

伊三郎の会がシアトルであるんです。その後、ラスベガスへ行っただけでインターナショナルですわ。

五月十日に、分家花柳芳次郎師の三十三回忌公演が国立文楽劇場であります。「峠の万才」を親子で踊りました。

★ 全身全霊で踊った「二人挽久」

ーリサイタルも印象深いですね。

芳五三郎 リサイタルは一回だけでいいと四十三才で長唄「京鹿子娘道成寺」と、それに長唄「黒塚」。唄は今藤長之、絃が芳村伊十七。

古賀政男先生が、自分の一生をと「幾山河」の詞を書いて山本武晴さんが作曲したのもやりました。

三代目の花柳寿輔家元と長唄「二人挽久」もやらせていただきましたが、「神戸に恐いのがいるよ」といわれて、東京お稽古が始まると、内弟子と弟子がずらりと並んで見てるんです。身震いして（笑）、本番は、全身全霊で踊りました。

何しろ家元は凄い。全国に三十六万人の名取がいる。主な名取が三万五千人。全部名前を憶えているというかしこい方です。女性ですけれどもね。

★ 三つの賞をいただきました：

ー平成十年、神戸新聞文化賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞を一挙に受賞されました。

芳五三郎 あればびっくりしました。神戸新聞と県からお話をいただいた、市から一日おいてお聞きしたときは、ありがたいやら驚くやら。

兵庫県文化賞は、県の最高の賞だからと、播磨運動公園に石に彫って下さって、西脇の弟子と一緒に見に行きました。分家花柳芳次郎師と楽師と私と花柳流だけが頂戴しているので、これから心せねばといましました。

宝塚歌劇団は、天津乙女さんと春日野八千代さんのお二人でしたが、富士野高峰さんも素晴らしい舞踊家さんなので差し上げてほしいですね。

昨年は、兵庫県舞踊協会が五十回出演記念と大和楽の「花を恋い」を花柳和泉さんと踊りましたが、今年は、私の会が五十回、結婚して五十年の金婚式を迎えられたのも皆様のおかげです。ありがとうございました。

（小泉）

□ 特集〈和の伝統〉③

森田耕山師 開軒35周年記念 尺八演奏会開く



竹の響きへ尺八に魅せられて

尺八の新都山流・森田耕山師（六十才）が、三十五周年の記念リサイタルを、神戸文化ホールで四月十九日に開かれた。今、尺八は、日本楽器の中でブーム到来の感がある。湊川神社社務所に稽古場を持つ耕山師を尋ねてインタビュー。

★古典もいいけど現代音楽もいい

— 先日はおめでとうございました。耕山先生と尺八の出会いはいつのことですか。

耕山 父がかつて、流祖・中尾都山先生に師事していたこともあり、尺八の音色が魅力的でいいものだなと思っていました。

市立西宮高校の吹奏学部でトロンボーンを約三年、合唱部で唄いました。それから神戸外大英米学科の二部へ入学して四年、在学中西宮市役所へ勤めたんです。

夜の時間が空いているので、何か楽器をやりたい、

家で出来るものはないかな、それに皆のやっていないことをやりたいと考えたときに、父が家で稽古をしていた尺八を思い出して挑戦してみようと思ったんです。父がちょうど尺八を買うという時で。友人の古中桂山師がなぜか二本尺八を送って来られた。それがきっかけですよ（笑）。当時は、役所に行って帰りはマージャンという行政マンが多いときに、とにかく熱心に稽古を続けました。

それに、トロンボーンをやっていたこともあって習得が早い。二十二才で初めて二年半で準師範、それから三年で師範になりました。

二十五才で教える資格を取りましたので、友達に教えましてね。第一回のリサイタルは三十五才で、昔の神戸文化小ホールで。

それから五年ごとに、ピッコロシアターや、芦屋のルナホールなどで開いて、平成六年に退職し、プロに転向して先日三十五周年記念になった訳です。



森田耕山開軒35周年記念尺八演奏会 竹のひびき—春風にのせて—平成15年4月19日 於:神戸文化ホール

— 耕山先生にとって尺八の魅力は？ —

耕山 尺八は聖徳太子の時代に中国の唐から雅楽と共に入って来ているのですが、なぜかはずれてしまつて、虚無僧の門付けなど仏教と関わってきていますが、私は繊細さと『むら息』のダイナミックさの音色が好きなんです。

だから古曲もいいし、現代音楽もいい。

それに教えることによっていろんな人と接しているので、自分のテリトリー以外の情報が入って来るのもありがたい。人間としての幅がでますからね。

今度『大和ボサノバ』というタイトルで、大阪で演奏会があり『大和ボサノバ』という曲に出演しますが、尺八も時には洋楽と一緒にやることもありますし、サロンコンサートを、三宮の『かろきや』という料理店で、弟子が主催する『ほろよいコンサート』に出演しています。

私の師匠は池田静山といまして七十一才。大阪にいらっしゃるのですが、音色に艶があって、包容力がある尺八。私のめざす音色ですね。

★邦楽の学校教育に夢を：

— 今、邦楽が学校教育にいましたね。 —

耕山 小学校の音楽の時間に指導に行きますが、六十人中、三・四人しか尺八を知らない（笑）。外国人の方々がよく知っていて、私の研究生にもフランス人がいます（笑）。

今の子供たちは、音楽に対していい耳を持っていますから、邦楽家としては、良質のいい尺八をきちんと伝えたいですね。

— 耕山先生のご趣味は… —

耕山 読書かな。松本清張、山本周五郎なんか良く読みました。あとは山歩きですね。

稽古場は三田の自宅と、阪神間各地とNHK文化センターとこの湊川神社。楠公さんの境内がお稽古場というのは雰囲気があって最高です。（小泉）

改革を 進めるために



近畿財務局長

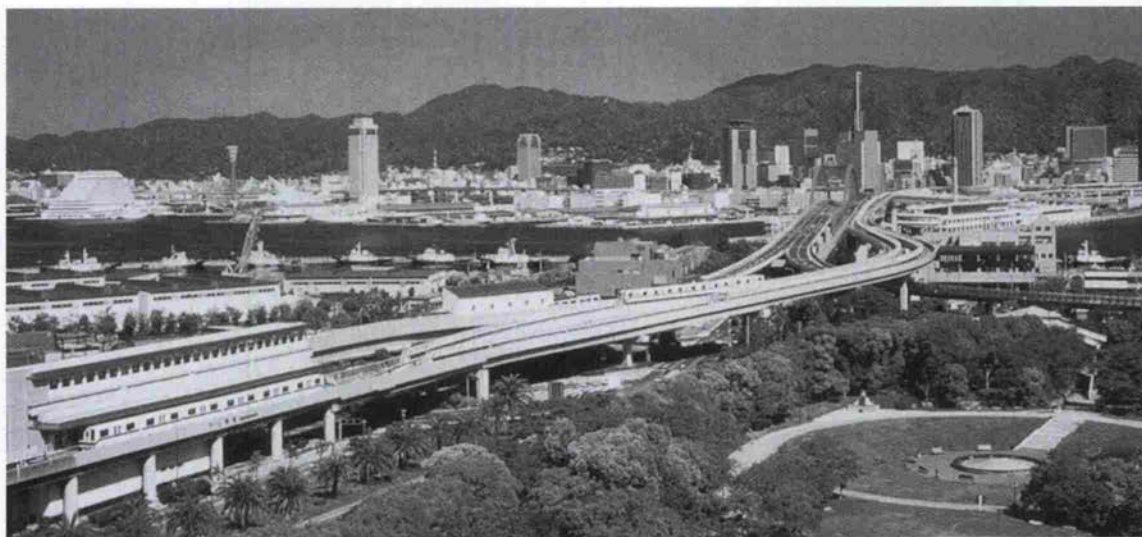
大村 雅基

厳しい経済状況が続く中で、「改革なくして成長なし」というスローガンに疑問を呈する向きもある。しかし、日本経済・社会を取り巻く大きな環境変化に対応してこなかった事が今日の停滞の主因であるとすれば、矢張り、改革なくして未来はない。「失われた十年」と言うけれど、この間政府について言えば、例えば、中央省庁再編が行われて経済財政諮問会議が発足し、情報公開や特殊法人の議論が進められ、金融機関の監督の在り方も大きく変わっている。企業部門についても、自動車産業のように、改革を進めつつ国際競争力を維持しているものも少なくない、インターネットや携帯電話の普及、環境や医療・福祉関連ビジネスの成長等、変化に対応した動きも生まれている。

しかし、こういった変化の規模とスピードはまだまだ不十分という点は否定できない。改革を進めるには、政府が明確なビジョンを呈示すると共に社会が改革の必要性を理解する事が不可欠であるが、不毛な二極論が社会的合意の形成を妨げているように思われる。一つは、自分が変わらなく

とも、環境が好転すれば再生が可能という他力本願の期待である。もう一方の極端は改革を自己目的化してしまう考えである。他力本願は根本的解決に成り得ないが、改革それ自体が目的ではなく、日本を取り巻く環境変化に対応した社会・経済システムを造り上げていく事が究極の目的である点が忘れられてはならない。例えば、不良債権の処理促進も、これ自体が目的ではなく、金融セクターに対する信頼を回復し、必要なところに適切な資金供給を行う為に必要なのである。

一昨年のノーベル経済学賞受賞者であるステイグリッツ教授の近著「世界を不幸にしたグローバリズムの正体」は、改革に関する好著である。教授は、グローバリゼーションや改革を成功裏に進める為の重要な視点を明らかにしている。第一に、改革を自己目的化してはならない。第二に、改革を進める為の戦略性と受け皿が重要である。第三に、社会の絆を断ち切ってはならない。ここで、日本への具体的適用例を論ずるスペースはないが、政府が改革を進めるうえ



で重要な視点である事は異論がないであろう。

年末に教授の本を読んで上述のような事を考えていた時に、最近病気のためにご子息を亡くされた、現在七八歳の高校時代の恩師を訪ねた。

お寺の住職でもある先生は、一旦亡くなった息子さんに譲っていた地域での日曜学校を継続しようとするが、地元の人達は、受験の足しになるわけでもない学校を実は止めたがっていたと知り愕然とする。地域の絆が失われ「日本人の帰るべきところが崩壊しつつある」と感じたからである。先生の言葉でもう一つ印象に残ったのは、「息子を失って初めて、人に尽くせるという事が如何に有り難いかを悟った。失った悲しみは大きい、全てが無に帰したのではなく、失う事により新たな目が開けた」というものである。

もとより、「日曜学校」のような具体的問題についての評価は様々であり、個人の感慨は人それぞれである。しかし、社会の絆をどう維持していくのか、また、現在の困難を単に「失われた十年」とするのではなく、日本の未来にどう繋げていくのか、これを問いかける事は私達一人一人に課せられた課題である。こういった問題を地域の皆様と共に考えて行きたいと思う。

ブルースな日々 あぁガス欠!

作／演出●是枝正彦

ONGAKU-GEKI

新しいスタイルの音楽劇『ブルースな日々 あぁガス欠!』が神戸でも公演される。稽古の合間をぬって、主演の前田吟さん、平田広明さん、吉岡毅志さんにお話をうかがった。

笑撃的なテイクハートコメディ

前田 この芝居は舞台上には、コーラスメンバーのための小さなステージがあるだけで、大道具、小道具はなく、コーラスがお芝居のストーリーをブルースで紹介して進行していくというスタイルです。それにのっとって我々が芝居をするという爆笑コメディ。コーラスにはミュージカルでは有名な田中利花さんや、クラシックの高橋桂さんが出演しています。

話は、とある劇団が地方の劇場で千秋楽を迎え、芝居が終わり幕が下りてくるというところから舞台は始まります。慢性的な金欠病の貧乏劇団ですから、くぎ一本、ガムテープ、食費も削り「ともかく節約しろ」という座長が私の役どころで、東京へ帰るまでの間にガス欠になったり、火事があったりといろんな事件が起こります。その劇団員9人の話です。

平田 実際の若手の役者はみんな貧乏ですよ。いろんなアルバイトをしますからね。劇団の若手を集めたら、ビルが建てられるくらいみんな手に職持っ

てますよ(笑)。

前田 日本の劇団はお金を儲けるっていうのを、どこかで忘れちゃったところから始まっているからね。でも舞台は何にもないところから少人数で作り上げていく魅力があるから辞められないね。出ていれば実力が見えてくるからね。

平田 舞台は生ものだから、自分のテンションと相手役のテンションとお客のテンションの三つ巴です。何べんもやっているステージでも、突然新しい発見があつて背筋がぞくぞくとする時がありますね。でも次の日からそれができるかというとなんかわけにもいらない。やっぱり生ものは怖いですね(笑)。

吉岡 まだ舞台はちょこっとなんです、ヒーロー出身で作っているユニット、「ヒーロー730」では舞台でムーブメントを起こそうとがんばっています。今回のようなお芝居は初めてですが、舞台は見る人によっていろいろな見方ができるというのがおもしろいですね。ぼくはデビューが映画で、その後ウルトラマンガイアのテレビの仕事が中心でしたが、



舞台への意気込みは相当なもの

舞台はやはりライブの楽しさがあり大好きです。

前田 出演者も畑違いの人が集まっていますから、それもおもしろいと思いますよ。

平田 毎日6時間くらい稽古をしていますが、今はみんなでひとつのものを創造して合わせていくという段階かな。それとこのストーリーは演出家の是枝さんが、実体験をもとに本を書いているから、真面目にやっているんだけど、演じながらおかしくなっちゃうところがあつて、二・三箇所あぶないところがありますよ(笑)。

神戸での公演が楽しみ

前田 ぼくは神戸の食べ歩きのリポーターをしたから、誰も知らないようなお鮨屋さんも知ってますよ。

吉岡 それは絶対連れて行ってもらわないと(笑)。

平田 神戸で公演がある時は、オフの時間はポータワーの辺りを散策したりしますよ。

吉岡 ラジオの仕事で神戸に行つたのですが、夜景

新神戸オリエンタル劇場

6月21日(土) 13:30～・17:30～

22日(日) 13:30～ 3ステージ公演

『ブルースな日々 ああガス欠!』

作・演出／是枝正彦

出演／前田 吟 平田広明 吉岡毅志
ウガンダ・トラ 細川 あゆみ 桜井 章
舞坂ゆき子 梶 敦美 山口果林
コーラス・田中利花 高橋 桂
ギター・寺門一憲 ばんきんや
キーボード・南 健太

料 金●S席7,000円／A席5,000円(全席指定・税込)

問合せ●有バン・プランニング ☎0120(498)562
新神戸オリエンタル劇場 ☎078(291)9999



通し稽古にも熱がはいる

がとつてもきれいだつたのが印象に残っています。

前田 食事でも若い人むけのお店が多く、お料理もダイナミックですよ。食べ物がおいしいというイメージがあるので、一年に一度くらいは行きたいです。

吉岡 さっきから、食べ物の話ばかりですね。公演の時はぜひグルメツアーをお願いします(笑)。

前田 神戸はパワーのある街だから、我々もお客さんを圧倒するようなパワーで舞台を作りたいね。肩の凝らない理屈抜きに楽しいお芝居を、リズムにのって観てもらいたいです。

—お話をしていた前田吟さんは、「男はつらいよ」のひろしそのままの気さくで優しい方。若手の吉岡毅志さんはさすがにアクションヒーロー、笑顔がすてきな好青年。アニメ「ワンピース」のサンジ役でも人気の高い平田広明さんはエー声でした。ブルースで綴る、可笑しくて哀しい新しいスタイルの音楽劇、みなさまぜひ劇場へお越しください。



どうしました?



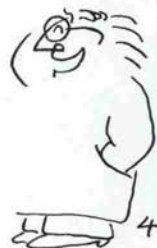
今 何のために
ここに きたのか
おもいだせん……

ほら、あの
すべての記憶が
よみがえるという薬を
のめばいいじゃ
ありませんか



そんな薬か があるのか?

なに言ってるんですか
教授が発明
したんでしょ



そ、そうだったかな……
で、どこにあるのじゃ

……ど、どこに……?



さかそう、
その薬……



~~~~~

震災復興のアーバンデザイン・その5  
「ガレキに花を  
咲かせましょう」



小林郁雄  
コー・プラン代表



希望の花・開花



長田区・ガレキのヒマワリ



灘区・ガレキ種まき隊

阪神大震災4ヵ月後の1995年5月末、ガレキを耕して花の種をまいた。暑い夏を耐え秋に咲いた。灰燼に帰した長田区ではヒマワリを、倒壊した家々が続く灘区・芦屋ではコスモスを、13ヵ所約5000平方メートルであった。左上写真はその最初に開花したコスモス、希望の花であった。

その地に住み、親をなくし家を失った地域の人々に呼びかけて、娘を下敷きにした家の跡を掘り起こし、瓦の破片を取り除き、涙のしみこんだ固い土を耕し、花の種をまいた。そして、たくさんの人たちが自分たちの家族と旧居をしのび、街の跡をたずね、水をやリ、花を見にきていた。

被災地のガレキに花の種をまくことは、市街地の緑化再生プロセスの第一歩であると共に、それぞれの地区での新たな復興まちづくりの出発点であり、最初の取り組みとなった。

死に絶えたような土地でも、種をまけば花が咲き、再び息を吹き返す。それを自分たちの手で行う。そのためのコミュニティサポートこそが、市民まちづくり支援のもっとも基本的な活動である。

後に、被災地での様々な緑化活動を展開する阪神グリーンネット（正式にはランドスケープ復興支援会議）が生まれる基となった。



神戸の  
モダン  
リビング

●女流建築家シリーズ  
**地域の拠点・福厳寺**



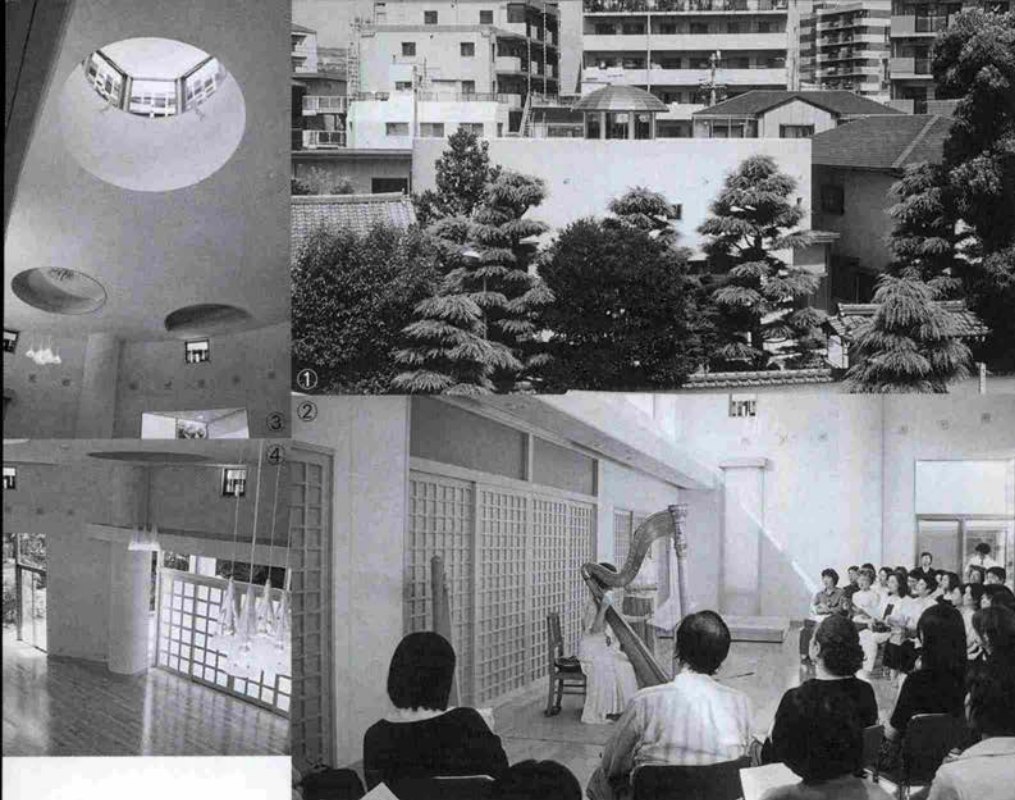
中川 倶子  
株式会社アルプラン  
代表取締役

阪神大震災で全壊した神戸市兵庫区の福厳寺。「震災で、お寺は地域の拠点だということを痛感した」という住職の思いから、全面フローリングで多目的のホールとしても使える地域コミュニティの核となるお寺として設計した。

鉄筋コンクリート造平家建約百七十平方メートル。耐震性に優れていることと、人が集う温かみのある建物であること。マッシュルームのように見えるステンドグラス付のトップライト。日中は青く、柔らかな光が差し込む。夜は内側からライトで照らし出され、光のドームをつくる。

正座にくい高齢者のために、法要などをいすで行うこととした。住職が座るたみは可動式で、たたみを動かすと、たちまちホールとなる。半円形で天井に変化があるので音響効果が良い。

二年前から六月と十二月に音楽会を開いている。この六月にも「コンサート・フラメンコギターの調べ」が開催される予定。私も企画メンバーとしてボランティアとして参加している。設計した建物に多くの人が喜んで参加している様子を見るのは、貴重な経験。できる限り続けていきたいと思っている。



①地域コミュニティの核となるお寺・福厳寺 ②音響効果の良いホール  
③柔らかな光が差し込む ④全面フローリングの多目的ホール

## 神戸JC先輩・後輩対談⑧

# JCの役割は いい男を育てること

阿部 泰久

(第36代神戸青年会議所理事長・兵庫ヤクルト販売株式会社代表取締役)

キラン×S・セティ

(2003年度社団法人神戸青年会議所理事長)



阿部 泰久  
1956年生まれ。1978年甲南大学経営学部卒。兵庫ヤクルト販売株式会社代表取締役社長。神戸商工会議所小売部会議員。

青年会議所の存在意義は、地域への奉仕活動を通じて個人の能力の向上を目指すところにある。「人のお役に立たなければ、企業も団体も継続しない」と話す阿部泰久氏に、魅力のある人づくり街づくりについてお伺いした。

### JCの役割は 街のお世話役を

阿部 45周年式典は、多くの先輩方が集まりいい雰囲気でした。50周年に向けてのステップとして、現役と先輩が集まって話す場は、大変意味があったと思います。私自身、JCを卒業してから、いろいろな団体に在席をしています。

どこの会に出席してもJCのOBがお世話役をしている事が多いです。各地域、各団体にいるOBとのネットワークを密にして、全体をつなぎ面にすることができれば、神戸はもっと活気づくのだと思います。

キラン 45周年ということで、神戸JCの歴史を振り返ったり色々な方のお話しをお聞きますと、神戸JCが、どれだけ街に貢献してきたかを再確認することができましたし、私自身、節目の年に選ばれた責任の重さを改めて実感しました。45周年は、神戸JCのこれからの可能性を考え、50年、100年の大計に向かうためのポイントだと思います。これからも大きな視野で物事を見ていかなければならないでしょう。

阿部 人のお役に立たなければ企業も団体も続きません。これはどの組織でも同じです。人のお役に立っているからこそ、引き続き発展していけるのです。そういう意味でJCはここまで、原点の精神を受け継いで発展して来られたと思います。私は青年会議所の役割とは、いい男を育てることだと思っています。いろいろな分野の人と出逢い、刺激を受けることで人間的に大きくなれるのです。今の神戸は全体で物事に取り組まなければなりません。しかしこんな状況



でも、神戸はまとまりがとれていないように思えます。ネットワークが必要なのですが、そのネットワークをつくるのが難しいのですよ。

**キラン** 国際関係の団体は特にネットワークを強めていく事が必要だと感じますね。みなそれぞれでは頑張っているのですが、やはり限界があります。全体のビジョンがないのです。神戸のビジョンを市民が共有していく事によってこれからの街づくりが活性化するので、すから、10年後・20年後・30年後どうなっていきたいのかということを書いておきたい。阿部 株式会社神戸と呼ばれていた10・15年ほど前、我々は行政がやらない隙間を探していました。いまはみなとまつりをJICに託すなど、市民主体の流れに変わって

きています。市民が動く時代に変わったのです。各地域ごとの意志が重要です。地域は高齢化、ノウハウの無さなど多くの問題を抱えています。それを支えるのも、神戸JICの役割の一つではないでしょうか。

**キラン** イベントは若者が集まらなければ活気づきません。まつりそのものに魅力がなければ企業の参画は望めませんし、効果がなければ継続する事もできません。この企業でも、効果があるからこそ協力してくれるのです。そして成功するためには、産・官・学はもちろんメディアとのつながりが重要です。みなとまつりも今年は誰を巻き込むかがポイントです。そして来年は誰が運営していくかです。JICの役割はクリエイティブとコーディネートなのです。



キラン・S・セティ  
ピッツバーグ大学経営学修士修得。㈱ジュビターインターナショナルコーポレーション取締役事務。2003年度、(社)神戸青年会議所第45代理事長。

## 個人の交流から広がる 真の国際交流

**阿部** 1994年に開催されたJICの世界会議の参加者は公称15000人でした。個人にとっても、神戸JICにとっても、これまでではない大きな目標でした。だからこそ自分の能力を超えた力を出せたのです。いままでない大事業を成すことで、個人も組織も能力以上の力を発揮するのです。残念ながらそのあと震災があり、あの盛り上がりを中心に上げることはできませんでした。神戸規模のまちはコンベンションを受け入れやすいのだと思います。このサイズのまちだからこそ、温かく迎え入れることができます。神戸が活気を取り戻すには、コンベンションや観光などで、外から神戸に来てもらわなければならないのですよ。

**キラン** 神戸の良さは、昔から親しみやすくお洒落な雰囲気があることです。しかしせっかくそういう雰囲気があるにも関わらず、どこか構えてしまうところもあります。かつてニューヨークのウォール街に行くはずだった私は、急速に神戸に帰ってこいと父に言われ思い迷い、意を決して神戸に帰ってくると、とてもほっとしたことを思い出しました。父には本当に感謝していますよ。いまアメリカに住んでいる兄や友人は、神戸に帰





りたいと言っています。心のゆとりを持って人間ほど、神戸に帰りがついていますね。

**阿部** 神戸に住む外国人の意見を、もっと前向きに受け容れるべきです。いまはそれが少なくなっていますね。神戸は外国人から見て何も特別ではないのです。外国人を観光に連れていく場所はほとんどありません。神戸は国内から見ると国際的ですが、海外から見ると違和感のない「居心地のいい場所」なのです。神戸は昔からどこか官僚的で、受け入れはするが、まとまるのは難しいと言われます。

しかし、世界会議を開催して感じたことは、海外の人は神戸のまちをとてにも気に入っていました。言葉、宗教、価値観が違って、最後には個人レベルの交流がもっとも大切なのだと思いましたね。あのときは神戸JICだけではなく、周辺JICにも協力いただいて、ホームビジットをやったのです。海外

のお客さんに、メンバーの自宅で食事のおもてなしをしていただきました。あれは良かったですね。市民も巻き込んだ事業だったのです。

## 期限付きの目標が夢実現の仕掛け

**阿部** JICマンである前に、地域に貢献できる経済人でなければいけません。地域で生かされる者として、お世話できる経済人でなければならぬのです。そして様々な経験を通して、自己発見できる場がJICなのです。そしてそれがいい男になる仕掛けです。いい男とは魅力のある男です。JICでは自分の企業ではできないこと、やらないことをしなければなりません。それを単年制度でこなすのです。人は普通、自分がやってきたことを続けたくなるものですが、JICでは知らないことを与えられます。まったく新しい分野の仕事を、人から与えられることで勉強するのです。期限付きの仕事を与えられると、何とかしようと必死で頑張ります。

**キラン** 逆に言えば、神戸JICは失敗できる場でもありますよね。

**阿部** 誰が、いつまでに、何をといった期限付きの仕事をしなければ、夢はただの夢で終わってしまふのです。まちづくりも企業も同じです。提言のほとんどは、期限をはっきり決めていないような気がいたします。

**キラン** 大きなゴールを掲げ、そこに至るまでの多くの期限が必要ですね。戦後の日本にはそれがあっ

たのです。ところがいざ追いつてしまつても何もやる事がなくなつてしまつたのです。企業の実現は、徹底してマーケティングに応えることにあります。では神戸JICは何に応えるべきかとなると、地域がお客さんなのです。

**阿部** 神戸JICにも、50周年までという期限付きのものがひとつ欲しいですね。神戸がこれだけ厳しい状況で、神戸JICに何ができるかを考えるのです。お金で済むものではありません。我々には汗をかき、知恵とパワーを出すことができます。これを最大限に発揮することが大切なのです。神戸はネットワークを線にし、面にしていくのが難しいまちです。そのために汗をかくのは、かき甲斐があるのではないのでしょうか。

**キラン** 先輩とは「先」に物事をした人です。経験者から教わることは何よりも尊い価値があると思いますし重要な事です。後でやる者ほど、失敗は減らせますから。大勢のご来賓や神戸JIC先輩諸兄にご参会いただいた今回の神戸JIC創立45周年記念式典は、そういった意味で本当に価値があったと感じますし、将来に向け頑張るための地固めと思っています。50年・100年先の街の将来を考え、私たち神戸JICは新たに歩み出します。

# 「神戸 悠久の友へ」が 心の扉を開く

摩耶はるこさんに聞く

神戸を中心に活動が続けている歌手の摩耶はるこさん。CD「神戸 悠久の友へ」を作詞・作曲され、CDの収益は、NPO法人・「しみん基金こうべ」に寄付されている。CDを出すきっかけやその思いについてお話を伺いました。



— CDを出すきっかけはどのようなところにあったのでしょうか。

摩耶 震災後、仮設住宅などをまわって歌をうたっていました。何の役にもたない自分に無力さというか、あせりのような思いを募らせたまま今日に至っております。そんな時、「しみん基金こうべ」の方とお話をしていた時に、財源不足を解消するための方法を考えておられたのです。そこで、私の楽曲がお役にたてることがあればと申し出たら、大変喜んでくださって、CDを作ってその収益を使っていただけることになりました。私の楽曲を買って聴いてくれる方がいて、その売上が団体などの活動資金になる、というのはとても理想的なことであり、それ

に参加できるのは、身震いするほど嬉しかったのです。

— 「神戸 悠久の友へ」は、どのような思いを込めておられますか。

摩耶 「神戸 悠久の友へ」は、良い時も悪い時も変わらずにそこにある、自然だとか人だとか、そういうものに改めて気付いた時期がありました。須磨の海岸で雲が割れて光が差し込んでいる光景やいつもそばにいて励ましてくれる友人、そういうひとつひとつの思いを歌に託しました。人は命を受けて人生を歩み出しますが、夢や喜びをもって生きてはじめて命が輝くのではないかと思うのです。「頑張れ」とただ言うだけではなく、自分でも踏ん張ってつかかんでいかなくては、そう思います。

— 一言でいうと神戸市民を励ますエールという事なのでしょうか。

摩耶 神戸とは神様の扉を意味すると伺いました。地震にも見舞われ、いろんな悲しみを知ってる場

所でもあります。この曲を聴いていただいて、皆さんの持っている心の扉、その扉をそっと開けていただける機会にしたいだけなら。悠久とは絶対的なもので、良いも悪い時でもずっとここに在るぞと絶対的な想い、そういう想いですよね。一言でいうと愛してるぞ。ということではないかなと。

— 今後の音楽活動についてお聞かせください。

摩耶 今の歩みをひたすら続けて行きたいと思っています。これまでは普遍的なものを具体的に歌ってきたつもりですが、これから皆さんの心に夢を届けられるように歌っていきたいと思っています。神戸市民の皆さま、特に痛みを知っておられる方、歩みたいけど足踏みされている方、そういった方々に、このCDを一人でも多くの人に是非聞いていただきたいと思います。皆さんが持っている神様の扉をあけてもらうきっかけになればと願っています。



神戸「悠久の友へ」

作詞・作曲・歌／摩耶はるこ  
発売日／4月11日  
発売元／しみん基金こうべ  
シングル版CD（マキシサイズ）  
発売価格／¥1,000（税込）

（問い合わせ）アート・サポート・センター神戸  
神戸市中央区山本通2-4-24  
☎078-262-8058





すなみみちひろ 1962年神戸生まれ。大阪工業大学卒業。87年スナミマリン(株)入社。01年スナミマリン(株)代表取締役就任。02年明石海峡大橋開発(株)代表取締役就任。

## 次代を創る ⑧ 須浪道広

明石海峡大橋  
開発株式会社  
代表取締役

# 時間と空間の融合をめざして 眠っていた資源を再生させる

ビリヤード場、そして和食店「くら蔵」など幅広いジャンルの事業をおこなっている明石海峡大橋開発株式会社。古い倉庫を活用して店舗を作るなど、独自の事業展開を手掛ける須浪道広社長にお話を伺いました。

若気の至りからオープンしたビリヤード場

もともと船舶関係の事業はどのようなものですか。  
須浪 家系として四国で造船関係

の会社をしておりましたが、祖父の代になり昭和初期、神戸に出てきて船具などを取扱うようになりました。それが、(株)スナミの前身となります。主に帆布、ワイヤーロープ等の船用品を加工販売しておりました。しかし、オイルショック以後、徐々に陸上の運送、建設の資材などの加工品が多くなり10年程前から、ロープを用いたジャングルジムなどの製造も行っております。また、昭和40年代から海外向けに船舶部品を輸出して

おります。

——ビリヤードのお店を出されたきっかけは。

須浪 大学卒業後、スナミマリン(株)に入社しました。世界には日本で造られた船が数多くあり、日本の計器や部品が使われていますよね。必然的に需要があるわけです。しかし、入社まもなく急激な円高になり、日本製品の国際競争力が低下し、海外顧客の発注先が欧米へシフトされ輸出が減少しました。そこで逆に輸入できるものはないかと考えてみたわけです。そこで思いついたのがビリヤードです。大学時代によく友人とビリヤードをしていたのですが、卒業後にビリヤード場に行ってみたら以前より流行っていきまして、台の生産も追いついてないという話を聞きました。そこで海外にある代理店で各国の生産事情を調査し、いろんな種類の台を輸入してきて展示もかねたアンテナショップを作ることにしました。日本は精密度が重要なのでビリヤード台の詳細部の改造を重ねていきました。ショップそのものも話題づくりとして、木造の倉庫を改装しました。店舗開店後に映画のハスラーがヒットしたこともあり、追い風となっておかげさまで受注も結構いってきました。今思えば若かったからできたと思いますよ(笑)。





①神戸ウイングスタジアムにオープンしたレストラン「ウルティモ」。ピッチレベルで試合を観戦することができる

②醤油蔵を改装した「くら蔵」明石朝霧店

③仲買人の資格をもったスタッフが毎朝市場までセリに出かけ仕入れてくる新鮮な魚

「くら蔵」オープンの初日の1日の売上は、68000円。

——倉庫を改装した和食のレストランの出店を思いつかれたのは。

須浪 ビリヤードは一過性だろうという思いもありましたので、次は和食というものに注目してみました。醤油蔵を改装して「くら蔵」というレストランをオープンさせました。当時は倉庫の中で和食を食べるイメージがなかったですね。当初の売上は思うようにはいきませんでしたね。今でもはっきり覚えていますが、初日の売上が68000円でした(笑)。今はおかげさまで、ハーバーランドにもお店を出店させていただきました。レンガ倉庫と和食とはどう考えても結びつきませんが、古いものをいかに活用させるかということで和食を結びつけてみました。近年は、神戸市漁協の買付人登録(セリの権利)も取得し、毎日スタッフが各地漁港でセリ落とした新鮮な天然魚介類をその日のうちに、各店舗で提供させていただいております。明石海峡の美味しい魚を地域の人に、地物、天然の魚の味を一人でも多くの方々に味わってもらいたいと思っています。

人生の大きなシーンを演出したい

——先日グランドオープンした神

戸ウイングスタジアムにレストランを出店されたということですが。

須浪 神戸ウイングスタジアムは主な施設整備を神戸市が行い、運営管理を民間会社が行う公設民活方式です。今までのような付属としての設備ではなく、ここにレストランがあるからスタジアムに人が来るというような発想でレストランのソフト構築をしたつもりです。そして他に真似できないようなレストランとしてスタジアムウェディングなども行います。他では決して体験することができない思い出深い日が演出できると思っています。ウルティモという名前はイタリア語で永遠という意味です。ウェディングや語らいの場、スポーツ観戦の場など、一つ一つのシーンに歓喜できるようなレストラン、人生の大きなシーンを想像する事業でありたいと思っています。

——今後の展開についてお話を。

須浪 醤油蔵やレンガ倉庫を改装した「くら蔵」のように、古いものの、眠っていた資源を再生させて活力ある空間に変えていきたいですね。時間と空間の融合といえますが、友達同士の語らいや家族でのコミュニケーションなど、印象に残る一頁、味わったひとつのシーンが忘れることなく永遠に続くような、そんな場所を作っていきたいと思っています。



## 暮らしの中に木材を

### 「ひょうごの木造・木質化作戦」について

お話を伺った方

兵庫県農林水産部農林水産局  
林務課長

島津哲治さん



島津哲治さん

県産木材の利用を進める取り組みについて、林務課長の島津哲治さんにお話を伺いました。

「木材を生活に取り入れることには、どんなメリットがあるのでしょうか。」

木材を建築材料に使った学校での調査によると、コンクリート床での校舎に比べて木材の床は子供の集中力が高まる、ストレスや不安を解消する、暖房器具を使うと部屋全体が均一に温まるなどの効果があるという結果が出ています。木材を住宅に利用すると、自然に快適な湿度が保たれる、ダニを寄せつけない、転んだときの衝撃を和らげるなどのさまざまな効果があります。また、森林は成長する際に二酸化炭素を吸収しますが、伐採して木材となってもそのまま二酸化炭素を蓄えているため、地球温暖化防止にも役立つのです。

県では、県内で産出される木材の利用を推進しています。これは、県産木材をたくさん利用することで、県内の林業の発展・農山村の活性化につながるだけでなく、手入れすることによって森林が健全に保たれ、森林の多様な機能がよく働くようになります。そのことが、ひいては県民の暮らしを守ることにもつながるからです。

「ひょうごの木造・木質化作戦」についてお話しください。

今年度から、県が率先して県産木材の利用を進める「ひょうごの木造・木質化作戦」を展開しています。作戦には三つの柱を立て、一つ目は「県立施設木造・木質化20%作戦」です。これは、今年度以降に建設・改修する県立施設について、特に防火上の問題など建築基準法の規制がない場合は原則木造とし、木造化できない施設は、床や壁など内装に木を使ってその木質化率を床面積の二〇％以上に相当する面積とするもの。

二つ目は、民間の住宅にも県産木材を取り入れるための「県産木造住宅10倍増作戦」。平成二十二年をめど

に、県産木材を使った住宅を今の十倍の千五百戸にしようというものです。そのために、県産木材を使った住宅への融資制度について、二・〇％の低利率を二十五年間固定するなどの充実を図っています（文末の表参照）。また、産地や品質、性能が明確な県産木材を利用し、価格や施工状況などの情報のすべてに透明性をもった「ひょうごの木の家」のモデル住宅を設置、普及啓発に努めます。現在、南芦屋浜と姫路市に設置を予定しています。これは、ITを活用して材木店、工務店、建築士などが情報を共有し、供給が円滑に進むようにする「ひょうごウッドイノベーション構想」などの施策の一環として進めています。

三つ目は、住宅の内装や木製学習机など暮らしの中で多様な木材利用方法を提案する「暮らしの中に木材を取り入れる運動」です。県の取り組みをPRするフェアや展示を県内各地で行うほか、県産木材の利用方法を助言するアドバイザーの設置、県産木材を使った学習机、イスを小・中学校へ導入するなど、皆さんの県産木材への関心を高めてもらう取り組みです。

最近実施されたアンケートでは、八八％以上の人が木造住宅に住みたいと答えています。木造住宅は割高だというイメージがあったり、木材の確保が難しいと思われがちです。ところが木造住宅は他の材料を使用するよりも低コストで済むのです。県産木材がより身近なものとなるよう、価格を抑え、供給を安定させるなどの取り組みをこれからも行なっています。

#### 県産木材利用木造住宅特別融資制度

- 対象Ⅱ県産木材を五〇％以上使用し、そのうち十四品目が「ひょうご県産認定木材製品」である木造住宅の建築
- 融資限度額Ⅱ二千万円
- 利率Ⅱ二・〇％固定
- 返済期間Ⅱ二十五年以内
- 問い合わせⅡ県林務課 078 (362) 3467



# 暮らしの中に木材を ひょうごの木造・木質化作戦

ひょうごの木の家は  
兵庫県で育った  
スギ・ヒノキ等を  
使って建てられるんだ

木材を使うことは  
地球温暖化を防止すること  
役立つんだよ

私達は光合成で  
空気中のCO<sub>2</sub>を  
どんどん取り込んで  
出し込めるんだ

木材として  
長く使えば  
CO<sub>2</sub>を出し込めた  
ままなんだよ

若い頃の方が  
たくさんCO<sub>2</sub>を吸収  
するんだ

みんなが県産木材を使えば  
木を切った後に若い木を  
植えられるから  
森が元気になるよ



木の家は  
健康で快適な  
暮らしに  
役立つんだね

県産木材を  
使って  
住宅を建てれば  
低利融資を  
受けられるよ

モデル住宅を  
見に行こうよ

調湿・保温・断熱・遮音  
抗菌作用が  
高いんだ

木の香りって  
気持ちがいいね

木の校舎は  
集中力が高まり  
疲れが少ないんだ

この机は  
木の部分だけ  
変えて  
リサイクルできるよ



イラスト  
佐藤晴美